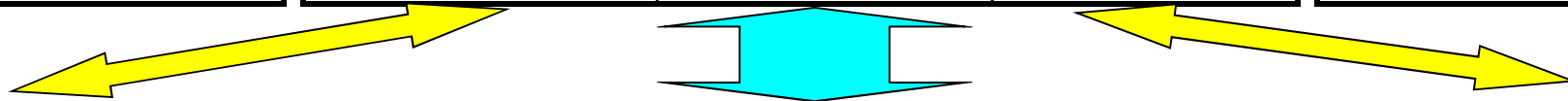


平成30年度 学力向上アクションプラン

A票

小田北中 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>全国調査の結果から見られる課題 H29年の結果では、国語A・B、数学A・Bにおいて全国を1～3ポイント下回る結果であった。全国平均に近づいてはきているが、国語・数学共に検査A問題での正答率が正答数が少ない生徒の割合が全国よりも高く、まだまだ十分な基礎学力が定着しているとは言えないのが現状である。そのため、より一層の基礎学力の充実が課題である。</p> <p>学校評価アンケートから見られる課題 H29年の2年生への調査では、「授業以外に1日あたりどのくらい勉強するか」の問いに対して「まったくしない」と回答した生徒が16%であった。基礎学力を充実させるためにも、下位層の生徒にとっても取り組みやすい課題を検討し、家庭学習の習慣を定着させていく事も大きな課題である。</p>	<p>神戸大学・石川慎一郎先生を講師として招聘し、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業作りを推進する。</p> <p>小田北中学校授業改善レシピを全教員で共有する。</p> <p>学習指導案を作成した授業を全員が公開し、研究協議を行う。</p> <p>授業改善アドバイザーの指導を、日々の授業に活かす。</p>	<p>朝学習の内容を充実させる。</p> <p>「水曜チャレンジ」「土曜チャレンジ」「考査前チャレンジ」への積極的な参加を呼びかけ、各自の学習習慣につなげさせる。</p> <p>毎週木曜日に「週末課題」を配布し、次週に点検する事により、家庭での学習習慣につなげる。</p> <p>毎週火曜日の放課後に、eライブラリ学習会を設定し、活用する。</p> <p>各学年で5教科の学習の手引きを作成し、配布する。</p>	<p>他校で行われている研修会や研究会に積極的に参加し、指導技術の向上につなげる。</p> <p>漢字検定や英語検定を校内で実施し、学習意欲の向上に役立てる。</p>	<p>「学校の授業をよく・だいたいわかる」割合を70%以上にする。</p> <p>「学校の授業以外で1時間以上勉強する」割合を55%以上にする。</p>



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>入学前テストの結果を検証し、中学校入学後の学習指導に活かす。</p> <p>7月上旬に、小学校・中学校の両教員が合同で研修会を実施する。</p> <p>中学校の教員が小学校へ出向いて授業をする「出前授業」を行う。</p> <p>授業参観日、オープンスクールだけでなく、小学校・中学校相互に授業を参観できる機会を設ける。</p> <p>英語学習において指導連携を図る。</p> <p>小学校児童が中学校入学前に、中学校で部活動体験を行う。</p>	<p>(1)アクティブ・ラーニング推進支援</p> <p>(2)授業補助支援</p> <p>(3)放課後等学習支援</p> <p>(4)学力定着支援</p>	<p>アクティブ・ラーニング研修会の実施(2回)</p> <p>囑託員による同室複数指導により、効果的な学習指導を行う。</p> <p>水曜放課後学習 2h×20週 考査前学習 2h×20回 土曜学習 2h×25週 夏季休業期間学習 2h×10日</p> <p>週末課題印刷用紙 課題作成用参考図書</p>	<p>学校ホームページに、学力向上アクションプランを掲載し、保護者の理解を得る。</p> <p>学校ホームページ、メール配信等を活用し、チャレンジスクールや放課後eライブラリ学習への参加を呼びかける。</p> <p>週末課題学習を通して、家庭での学習習慣の確立について協力を呼びかける。</p> <p>連絡帳を活用し、家庭との連携を図る。</p> <p>学力調査の結果を公表する。</p> <p>チャレンジスクールの講師の参加を、地域に呼びかける。</p>